

利用成果報告書

- 1 課題番号 H29-L05
- 2 報告者 橋本祐一 東京大学定量生命科学研究所 生体有機化学研究分野
- 3 利用区分 成果公開有償利用
- 4 利用課題名 生体有機化学研究分野の創薬ならびに戦略的基礎分子医薬化学に関係する化合物の組成分析
- 5 使用装置名 元素分析装置(依頼分析)
- 6 利用期間 平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日

- 7 利用成果・実績の概要
 大学における創薬研究のミッションの一つに、新たな治療戦略の提案や、関連する、新たなタイプもしくはカテゴリーの医薬創製の提案がある。こうした基本姿勢のもとに本研究からは、様々な医薬シーズの創製研究を遂行した。合成した化合物は、生物活性を検定する上でもその構造と純度を正確に確認する必要がある。そのために最も信頼できる分析法として、化合物の組成式を確定し、純度を保証する元素分析を行った。元素分析データによって構造と純度が裏打ちされた化合物試料を用いての生物検定結果の持つ信頼性は高い。元素分析データによって構造と純度が確認できた化合物について、生物活性解析等を行った。
- 8 社会・経済への波及効果
 創出する新規医薬シーズ群は、未だ治療薬が存在しない、あるいは満足できる治療法のない(アンメット・ニーズ)疾病に対する治療戦略の提案に直結する。

9 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果(発表題目、口頭・ポスター発表の別)	発表者氏名	発表した場所(学会等名)	発表した時期	国内・外の別
パーフルオロアルコール基の代替官能基としてのシラノール基の医薬的有用性の検討(ポスター)	外山大純、橋本祐一、藤井晋也	日本ケミカルバイオロジー学会第12回年会(北海道大学クラーク会館)	2017. 6. 7~9	国内
Phenanthridin-6(5H)-one骨格を有する非ステロイド型プロゲステロン受容体拮抗薬の創製(口頭)	西山郵子、森修一、榎島誠、藤井晋也、影近弘之、橋本祐一、石川稔	日本レチノイド研究会第28会学術集会(神戸薬科大学)	2017. 11.18~11.19	国内

10 学会誌・雑誌等における論文掲載

掲載した論文(発表題目)	発表者氏名	発表した場所(学会誌・雑誌等名)	発表した時期	国内・外の別
Structure-activity relationships of rosiglitazone for peroxisome proliferator-activated receptor gamma transrepression.	Yosuke Toyota, Sayaka Nomura, Makoto Makishima, Yuichi Hashimoto, and Minoru Ishikawa	Bioorg. Med. Chem. Lett., 27(12): 2776-2780 (2017).	2017. 4. 20	国外
Development of nonsteroidal glucocorticoid receptor modulators based on N-benzyl-N-(4-phenoxyphenyl)benzenesulfoamide scaffold.	Hiromasu Yoshioka, Ayumi Yamada, Yuko Nishiyama, Hiroyuki Kagechika, Yuichi Hashimoto, and Shinya Fujii	Bioorg. Med. Chem., 25(13): 3461-3470 (2017).	2017. 4. 29	国外